

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀Ⅱ きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-28		
自己評価作成日	平成26年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500377-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500377-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成26年3月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・ご本人、ご家族の思いを大切に、その人らしく生活をして頂いている。(生活歴をしっかり把握し、生かしている。)  
 ・ご家族との信頼関係を大切にしている。また、「第二の家」として選んで良かったと思って頂けるよう、支援をしている。  
 ・年に1度家族会を開催し、年間行事や日常生活での一人ひとりの入居様の様子を詳しくお伝えできるよう、映像にまとめて鑑賞していただいている。  
 ・兼務の看護師が在籍していることで、少しずつではあるが医療面でのケアができてきている。ホームのできる範囲は限られるが、最善のサポートを心がけている。(ターミナルにおけるケアについても含む。)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

認知症ケアで、歴史や教科書に登場するような「きのこエスポール病院」の傘下に立つ4軒のグループホームの中で、潇洒な和風の家が「きのこのき」である。内部の様相からも創り手の熱い思いが伝わってくる。以前より介護度が軽くなり、今年度の目標にも「外出」を掲げられる状況になっている。現在の利用者の、連れ立って歩く散歩の姿や、テーブルを囲んで笑い合う様子を見ても、今がこのホームの地域に、より密着した活気ある日々を築くチャンスではないかと思う。若い管理者・職員とそのエネルギーを支えるベテランの力、ホームの運営にも精通した看護師の底力は、開設15周年も近い「きのこのき」に、何か新しい風を起こしてくれそうな予感を感じさせる。数々の記録を見ても、リビングや居室での職員の声かけやサポートを見ても、「さすが」と感じさせるケアの力量は言うまでもない。今は春。一步一步踏み出すチャレンジを期待している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします。」という理念の下、一人一人の生活を大切に考えている。また、その為のミーティングも行っている。	年間目標「みんなが楽しく生活できるように外出や離床を積極的に」を掲げ、出来る限り外出を増やそうと取り組んでいる。活動意欲のある利用者も増え、お花見や紅葉見学にも出かけて行きたいと思っている。	「ワクワク・ドキドキするような瞬間を持っていただきたい」と密かに思っているスタッフの願いが一つでも叶えられる為の、事前の準備や仕掛けを期待している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が悪く難しいが、運営推進会議を通じ地域のサロンへ参加させてもらっている。地域としては小規模だが、近隣のGHや同施設内の入居者との行き来による交流が少しずつではあるが、定着してきている。	今は年2回であるが、地域の「棕の木サロン」に希望者と職員で参加している。そこには、幼稚園児も来たり、地域のお年寄りと一緒にレクを楽しんでいる。法人施設内の老健クリスマス会やバザー等にも参加し、少しでも交流の輪が広がるようにしている。	立地条件が厳しい事はよく理解できるが、「利用者が地域へ出かける」「ボランティアの方や家族とのつながりで、もっと地域の人に入っていただく」の両面から交流の幅が広げられるのではないかな。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やサロンへの参加などで少しずつ改善されているが、まだまだこれからである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	私達ができることや地域の方が望んでいることなど、運営推進会議やサロンを通じて話し合いをしており、今後も継続していきたい。	同敷地内にある法人の4グループホーム合同で2ヶ月に1回開催している。市の担当者、民生委員、職員等の参加があり、活動報告、情報提供等をしている。参加者と認知症についての勉強会をして、知識や理解を深める等、話し合いをしている。	定期的に確実な運営推進会議が実施されている様子が会議録からも、よくわかれるが、意見交換の記録が少なく、サービス向上に活かしにくい。参加者や会の持ち方・意見の引き出し方の工夫を引き続き検討したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、また必要時には連絡を取り、また市役所を訪ね相談を行っている。	運営推進会議に市の担当者の出席があり、情報の提供を受けたり指導してもらっている。諸々の書類の提出時や分からないことがあれば直接、市の担当者へ聞き助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、皆で話し合っている。身体拘束は行っていない。	職員ミーティングでもよく話し合っており、心理的・身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。また、法人内の勉強会には職員全員参加し意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのコミュニケーションを大切にしており、今後も意見、情報交換を行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	きちんと理解出来ていない現状のままである。 研修会や勉強会への参加を呼び掛けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、相談時、入居時にきちんと伝え、ご家族からの相談も受けている。 質問や疑問等があれば、その都度お話しできる機会を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は比較的良好に来て頂いているので、その時にしっかり話をしている。しかし要望は直接聞けることは少ない。スタッフからはたらきかけを今後も継続し、ご家族との信頼関係をさらに築いていく。	家族会で1年間の利用者の生活や様子をDVDと一緒に見ながら、食事や話をして親睦を図っている。利用者個々の状況報告は面会時や必要に応じて請求書に添えて手紙でお知らせしている。	年に1回家族会を開催し、情報を伝えたり交流を図り続けている事は素晴らしい事と思う。今後期待している事は、これらに加えて家族から色々な意見を引き出せる工夫を職員間で話し合ってみる事である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、スタッフの想いを聞き反映させている。	毎月1回、職員会議を開催し、各委員会の活動報告や協議事項を話し合い、情報の共有を図っている。申し送りノートや日常的な場面でも職員同士で意見交換をしている。また、統括責任者・管理者・職員三者による個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとしっかり話が出来る時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は近隣のGHと共同で講師の先生を招き、勉強会を企画しました。今後も積極的に外部研修や勉強会に参加していきたい。 又、日頃の介助やかかわる姿勢について、色々な案を出し合い、より良い方法はないか話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加したり、他GHとの交流も少しずつ増えてきている。 同法人内で2か月に1度GH交流会を行っており、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人、ご家族としっかり話をし、少しでも安心して頂けるよう心掛けている。また、可能な場合には入居前に会いに行き、ご本人の様子やご家族が不安に感じている事を聞かせてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いを聞かせてもらえるようしっかり話をしている。 また、面会のお願いもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分自身の想いを伝えることができる方には聞き取りを行っている。入居者の中にはそういったことが難しい方もいらっしゃるのので、その時にはご家族の想いを聞き、プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心掛け、共に生活をし、居心地の良い雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きやすい雰囲気作りをし、来られた時にはしっかり話をし相互理解を深めている。 また、毎月手紙を送り、生活状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との連絡を大切にしている。 ご家族の面会も多く、また、面会規制をされてない場合には親戚や職場の同僚の方などが来られ、居室やリビングで一緒にゆっくりと過ごせるような空間作りに努めている。	年末年始やお盆には、外泊をして数日間家族と一緒に過ごす人もいれば、家族がホームへ面会に来る人も多く、ほとんどの人が家族や親戚と過ごしている。法人内のケアハウスに入居の親戚の人との交流が続いている人等、職員はこれまでの関係を大切にしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適度にスタッフが間に入ることで、入居者同士の心地よい空間作りに努めており、大切にしている。 又、一人で過ごす時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも、いつでも相談していただけるようご家族にお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にし、活用している。しっかりコミュニケーションをとり、不安を取り除くようにしている。 ご家族ともこまめに話をし、ミーティングでスタッフの想いと一つにしている。	その人の生活歴を本人や家族から聞いて作成したり、家族が直接書いている本人の情報の記録を参考にしながら、一人ひとりの思いや希望に添った支援をしようと努めている。自分で希望を言える人には職員がしっかり向き合って話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話を聞き、想いや希望の把握をしている。 ミーティングを定期的に関き、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかり関わり、小さなこともきちんと記録し、スタッフ間での密な情報共有を心がけ、少しの変化にも気付くようにしている。 何か変わったことがあれば、その都度ご家族に連絡している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、ご本人やご家族の意見を基にミーティングをし、介護計画を作成している。 ご家族と話をしたことを、きちんと記録として残している。	利用者の担当制があり、ケアプランも担当者が中心となり、計画作成担当者・職員と話し合いながらプランを作成している。本人・家族の思いや意向をしっかり把握し、定期的にあセスメントやモニタリングをしながらプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には表情、言葉、しぐさなど、ご本人の事がよく分かるよう記入している。 その時に居合わせなかったスタッフが記録を読んだ時に、きちんと分かるように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉やご家族の想いをしっかりと聞き、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロンへの参加で少しずつ地域に向けて取り組んでいるが不十分である。 運営推進会議でいろいろな方法を検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、かかりつけ医がいる方には受診を支援している。	全員が母体病院の院長が主治医であり月1回の往診がある。他ホームと兼務の看護師が隔週で職員として勤務しており、老健の看護師の訪問もある。原則、専門的な他科受診は家族に付き添いをお願いしているが、難しい場合は職員が同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきも含め、細かな情報もしっかり伝え、コミュニケーションを取っている。わからないことはすぐに相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に、ご家族、病院関係者との話し合いの場をしっかりと持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に入居時に出来ることを伝えた上でご家族の想いも聞き、必要に応じてその都度話し合いをしている。	これまで1名の看取りの実施があり、現在ターミナルケアの支援をしている人が1名いる。母体が医療機関であり最期は病院に入院する人がほとんどであるが、本人・家族の希望があれば、医療連携を図りながらホームでの看取りの体制は十分整っている。ミーティングで胃ろうについての話し合いもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな変化に気付けるようにしっかりと関わっている。 応急手当など今後も勉強し、身に付けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体での避難訓練は定期的に実施している。 地域との連携・協力は立地上難しい為、同法人のGHで協力し合い、避難訓練を行った。今後は訓練を定着していきたい。	消防署の立会いの下、グループホーム合同の避難訓練を実施した。通報装置・消化器の使用・避難経路の確認、誘導などの訓練をし、消防署の指導を受けた。今後は、避難先の確保やグループホーム同士の連携・連絡を検討していこうと思っている。	大震災や他県のグループホームの火災の状況を受けて災害対策は確実に進んでいると思われる。ただ、このホームは2階があり、いざという時の階段が気がかりなので、日頃の訓練でも重視しておきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ、トーンなど、十分に気を付けている。 個人情報の取り扱いにも配慮している。	職員はコミュニケーション研修を受け、声かけ・接し方等の接遇に関しては十分な知識を持っている。一人ひとりの人間としての尊厳を大切にしながら、職員は穏やかな笑顔を絶やさず、その時々状況に合わせてサポートしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中や、傍で一緒に居ることで想いに気付いたり、またご家族の話聞き、想いに応えられるようにケアプランに反映させ取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によりすぐに対応出来ないこともあるが、常に入居者の様子を気かけ、なるべく希望、想いに添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類をご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で話をしながら決めたり、旬や行事も大切にしたいと思っている。手伝いは自主的にして下さる時に一緒にしている。	食事は朝・昼・夕と、その日の担当者が作る。食事は自立している人が多く、その人の好みでリビングのテーブルや炬燵で食べている。ミキサー食で介助が必要な人は2人。料理の下ごしらえ、後片付け、テーブル拭き等、お手伝いしてくれる人にも役割分担がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に変化のある方は、しっかりと記録に残している。 食事は皆一緒だが、量や形態を変える工夫をしている。 水分には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で行えるよう声掛けや必要な介助を行っている。 口腔ケア用品は、それぞれに適したものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	小さなサインに気付きながら、さりげない声掛けを行い、介助をしている。	各居室にトイレがあり、排泄が自立している人も多い。中には自分でトイレに行った時間と回数を記録している人もいる。便秘気味な人にはオリゴ糖や牛乳を摂取してもらい、排泄チェック表で一人ひとりのリズムを把握し、適宜、声かけ、誘導しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等工夫し、運動や腹部マッサージで自然排便が行えるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決めず、一人一人に合わせている。介助者の人数も、安全で安心して入浴してもらえるよう、その人に合わせている。	基本は2日に1回、午後から入浴している。重度化している人には、二人介助でシャワー浴対応をしている。元気で1人で入浴する人の場合は、職員が安全を確認しながら見守りしている。皆、お風呂が好きで、気持ちよく入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活ペースに合わせ、少しでも夜間の快眠や休息出来るように働きかけ、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や副作用についてきちんと理解が出来ているかは不安がある。これからもきちんと理解をしていくよう心掛けていく。薬の説明書は、いつでもすぐ確認できるようにファイルに入れすぐ見れる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩に行ったり、ご家族の協力も得ている。 気の合う方同士との時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩やドライブを行っている。今後もご家族の協力を得ながら、外出を行っていききたい。	バス1台を貸切り、職員が運転をして温泉に日帰り旅行をし、劇団の芝居や食事を楽しんだ。他施設と一緒に希望者が由加山へ初詣。笠岡干拓地へポピーやひまわり見学、ドライブ、日常的な散歩等、職員は少しでも外出の機会を増やそうと努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理出来る方がいないので、全て施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時にはしており、ご家族にもお願いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光の加減、温度など気を付け、快適に生活出来るよう工夫をしている。 入居者の作品を飾っている。 リビングには横になってくつろげるスペースがある。	ホーム内はデザイン性の高い、木の温もりのある装飾になっている。炬燵のある畳敷きとフローリングのリビングが融合した寛げる空間では、利用者がテーブルで隣同士、話をしたり、テレビを観るなどして思い思いに過ごしている。壁の折り紙作品や観葉植物の緑が癒しの効果を生んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごしたり、気の合う方と過ごせる空間作りを考え、リビングルームや和室を活用するなどして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも穏やかに安心して生活して頂けるように、居室のインテリア、家具は使っていたものを持ってきてもらうようお願いしている。 写真・手紙等も飾っており、その人らしい空間作りを心掛けている。	窓の障子に畳敷きの部屋は、家庭での生活をそのまま持ち込んだような、個性的で、その人らしい居室になっている。枕元にラジオを置いたり、文庫本を並べて読書している人、毎日お化粧する人もいる。落ち着けるプライベートな場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インテリアや家具の配置を工夫し、転倒防止に気を付けている。 居室には表札を掛けている。		